

ベナン月報(2017年4月)

主な出来事

【内政】

- 4日, 国民議会にて1990年12月11日に発布された共和国憲法の改正案の採択が行われ, 賛成60票, 反対22票, 棄権1票で否決された。
- アジャボン氏は, タロン大統領の政策は国民を飢えさせていると非難した。また, 2021年の大統領選に向け高邁な目標を掲げたいとして大統領選出馬を示唆した。

【外政】

- 21~22日, タロン大統領は, 「政府行動計画(PAG)」のパートナーや出資者と会談するために2日間パリに滞在した。
- 27~28日, アベノンシ外務・協力大臣と2閣僚はノルウェーを訪問した。商業, 投資, 気候変動や対テロ対策について話し合いを行い, 最終的に技術協力や平和維持の研究に係る連携強化及び二国間の経済・ビジネス関係の促進という2項目について覚書を交わした。

【経済】

- トナト生活環境・持続的開発大臣は, ベナン全土600kmに渡る道路の整備と改修工事を行うと発表した。同事業は4, 000億 FCFA を超える予算でコトヌなど9都市が対象となる。

※下記内容は, La Nation 紙, Le Matinal 紙, L'Événement Précis 紙, L'économiste 紙, La Nouvelle Tribune 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- ・ 4日, 国民議会にて1990年12月11日に発布された共和国憲法の改正案の採択が行われ, 賛成60票, 反対22票, 棄権1票で否決された。可決には議員数の四分之三である63票が必要であった。(5日, Le Matinal 紙)
- ・ 4日, 国会議員グループ「Renaissance de Benin」のリーダーであり, 元大統領夫人のロジヌ・ソグロ議員は共和国憲法改正案で賛成を投じるようにと現金を受け取ったこと, そして他の全ての議員も同様であると述べ政府を批判した。(5日, L'Événement Précis 紙)
- ・ 10日, ビオ・チャネ計画開発担当国務大臣とワダニ経済・財務大臣は, アフリカ開発銀行と2項目について協定を結んだ。協定の目的は, 森林保護, 気候変動及び食糧安全保障に資するための機能強化としており, 協定の内容は, 61. 3億 FCFA の支援及び同銀行のベナン事務所の開設である。(11日, L'économiste 紙)
- ・ 16日, アジャボン氏はラジオ番組に出演し, タロン大統領の政策は国民を飢えさせていると非難した。また, 2021年の大統領選に向け高邁な目標を掲げたいとして大統領選出馬を示唆した。(18日, L'Événement Précis 紙)
- ・ 18日, 経済・財務省経済総務局は, パブリックカンファレンスを行い, ナイラの下落に直

面するベナン経済の問題点と解決策について話し合った。(20日, L' économiste 紙)

- ・ 28日, アゴンカン国会議員は, 全ての議員が4日の憲法改正の投票前に500万 FCFAを受け取ったと公表した。しかし, それは必ずしも買収ではなく, 選挙区での国民の意見聴取が目的であり, 実際に金銭を受け取ったが反対票を投じた議員もいる旨付け加えた。(5月2日, L' Evénement Précis 紙)

【外政】

- ・ 21~22日, タロン大統領は, 「政府行動計画(PAG)」のパートナーや出資者と会談するために2日間パリに滞在する予定である。(20日, Le Matinal 紙)
- ・ 25日, 外務・協力省において, ウィダ市と中国雲南省大理ペー族自治州間で, 観光分野での協力を強化する覚書が締結された。(26日, La Nation 紙)
- ・ 26日, 中国の湖北工業大学学長は, アボメカラビ大学学長を訪問し, 両大学間での共同研修や交流分野の拡大などに関するパートナーシップ協定を締結した。(28日, L' Evénement Précis 紙)
- ・ 26日, トナト生活環境・持続的発展大臣はイスタンブールにてトルコの Polimeks 社と, 20,000戸の社会福祉住宅の建設案件に関して, 契約を交わした。当案件は「政府行動計画(PAG)」の最優先45案件の一つであり, 2021年までの4年間で, 毎年5,000戸ずつ建設していくとしている。(27日, L' économiste 紙)
- ・ 27~28日, アベノンシ外務・協力大臣, ウス・エネルギー・水利・鉱物大臣, トナト生活環境・持続的発展大臣及びダニョン大統領特別顧問は, 2国間関係強化のためノルウェーを訪問した。商業, 投資, 気候変動や対テロ対策について話し合った。最終的に技術協力や平和維持の研究に係る連携強化及び二国間の経済・ビジネス関係の促進の2項目について覚書を交わした。両国は今後も毎年継続的に外務大臣レベルでの会議を行っていくとしている。(5月3日, L' Evénement Précis 紙)
- ・ 28日, ハニー・バン・ジク在ベナン蘭国大使は同紙のインタビューで, 対ベナン開発協力について説明した。保健, 食糧保障, 給水の3分野に注力していると, 「二国間の協力はとても順調にしている」と述べた。蘭国は2015年にベナンで実施された複数年給水・浄化計画第2フェーズ(PPEA II)への開発資金をめぐるスキャンダルに巻き込まれた。(5月2日, L' Evénement Précis 紙)

【治安】

- ・ ベナン国家警察152人は, 15人の米海兵の指導の下, 4週間に渡り国境警備に関する理論的・実践的な訓練を受けた。(16日, La Nouvelle Tribune 紙)
- ・ 22日, ボイコンのザクポ交差点で, 道を譲らなかったことに腹を立てたナイジェリア人のバス運転手がベナン人運転手を棒で殴打し失神させ, 同運転手が病院に運ばれるという事件が起きた。また, それに激怒した付近の人々がナイジェリア籍のバスの前にタイヤでバリケードを設け, 火をつけるなど暴動を起こしバスは全焼した。殴打したナイジェリア人運転手は警察に連行された。その後, 近くに停車していたナイジェリア籍の同じ会社が運

営するバスにも周辺の人々により放火された。この騒動で5人がけがをし、道路は一時封鎖された。(24日, Le Matinal 紙)

【経済】

- ・ 6日, サヴェ第3小学校において, 日本の約5,200万 FCFA の支援により建てられた6つの教室, 事務所及び倉庫の引渡式が行われた。小西大使, アラベ・サヴェ第二助役, ピンストン・サヴェ市プラトー地区長らが出席した。(14日, L' Evénement Précis 紙)
- ・ 6~7日, ディオップ世界銀行アフリカ地域副頭取は, ベナンを訪問し, 「政府行動計画(PAG)」に対し, 今後3年間で4, 100億 FCFA の支援をすると発表した。(13日, La Nation 紙)
- ・ 世界経済フォーラムで発表された調査によると, ベナンは安価で旅行が出来るアフリカとして34か国中, 19位にランクインした。調査の項目は, 旅行中や移動で要する税金の状況, ホテル1部屋の平均価格, 為替による購買力, ガソリンの販売単価の4つの指標から算出された。(14日, L' économiste 紙)
- ・ 14日, トナト生活環境・持続的開発大臣は, ベナン全土600kmに渡る道路の整備と改修工事を行うと発表した。同事業は4, 000億 FCFA 以上の予算で, コトヌ, ポルト・ノボ, パラク, アボメカラビ, セメ・ポジ, アボメ, ボイコン, ナチテング及びビロコサの9都市が対象で, とりわけコトヌは255kmと対象道路を最も多く占め, 2017年第4四半期に開始される。(18日, La Nation 紙)
- ・ 20日, 在ベナン日本大使館において, 現地民放局 CANAL3への日本のテレビ番組の引渡式が行われた。小西大使は, スピーチの中で, 日本の積極的な対ベナン文化協力について説明をした。引き渡されたプログラムは「犬夜叉」と「アスコーマーチ」である。(24日, L' économiste 紙)
- ・ 21日, 「政府行動計画(PAG)」の優先255案件の一つである, 野菜栽培発展推進計画の開始が正式に発表された。同計画は国際農業開発基金から287億 FCFA の貸与と寄付により支援される。食糧安全保障と野菜栽培家の収入増と気候変動対策を目的とし, ベナン南部7県27コミューンに同計画は跨っており, 17,000人の野菜栽培家と関係産業3, 000人の合計20, 000人に影響を与える。クダンデ農業・畜産・漁業大臣は, 「野菜栽培家には食糧・栄養の安全保障や郊外や地方での雇用創出の面で貢献できるポテンシャルがある」と述べた。(24日, La Nation 紙)